

U.S. Indicators

発表日:2021年11月17日(水)

米国 供給制約も拡大基調維持(10月鉱工業生産)

～ハリケーン襲来の悪影響剥落、自動車生産の拡大、ハイテク部門の好調が押し上げ～

第一生命経済研究所 経済調査部

主任エコノミスト 桂畑 誠治(Tel:050-5474-7493)

21年10月の鉱工業生産は、前月比+1.6%（9月同▲1.3%）と市場予想の同+0.9%を上回った（5月－9月合計0.1%p下方修正）。増加の半分程度は、ハリケーン「アイダ」襲来による被害からの回復だが、半導体不足で変動幅が大きくなっている自動車、需要の好調が続くハイテクの生産拡大等によって、押し上げられた。公益が前月比+1.2%（前月同▲3.7%）と増加に転じたほか、鉱業がハリケーン「アイダ」襲来の影響が剥落したことで前月比+4.1%（同▲2.3%）、製造業がサプライチェーンの問題で8、9月に落ち込んだ反動で前月比+1.2%（同▲0.7%）と市場予想の同+0.8%を上回った（21年5月－9月合計0.1%p下方修正）。製造業では、一般機械がストによって縮小したが、ハリケーンの影響で落ち込んでいた石油・石炭、化学などが拡大に転じたほか、部品の供給により自動車が急増、需要の好調なハイテク、家具などが拡大を続けた。

3ヶ月移動平均・3ヶ月前対比年率では、鉱工業生産が+1.7%（前月+3.9%）、製造業生産が+2.3%（前月+4.8%）と鈍化したものの、ハリケーン「アイダ」襲来による8、9月の一時的な落ち込みの影響であり、堅調な拡大基調を維持していると判断される。製造業の生産活動は、半導体不足、人材不足、輸送能力の不足などサプライチェーンの問題等の制約を受ける中で、新型コロナウイルスのパンデミックに伴う財需要の増加、在庫不足を背景に、拡大基調を維持している。四半期では、鉱工業生産は10月に7－9月期比年率+3.1%と7－9月期の前期比年率+3.9%から小幅低下にとどまっており、6四半期連続で高い伸びを維持すると予想される。10月の製造業は7－9月期比年率+2.7%（7－9月期前期比年率+4.8%）と減速も、11、12月の生産拡大が見込まれており、10－12月期に前期比年率+4%程度の高い伸びになると見込まれる。

10月の設備稼働率は、生産能力が拡大するなかで生産の拡大によって鉱工業が76.4%（前月75.2%）、製造業が76.7%（前月75.8%）とともに上昇した。

今後に関して、世界的な景気回復、国内需要の拡大が続くもと、在庫不足等を背景に、製造業生産は拡大モメンタムを維持すると予想される。ただし、世界的なスマートフォン、PCの需要拡大や供給問題による半導体不足の継続によって、自動車や家電を中心に生産の拡大ペースは当面抑制される公算が大きい。

鉱工業生産

	鉱工業生産		製造業						設備稼働率		生産能力
	前月比	前年同月比	製造業 (NAICS)	鉱業	公益	ハイテク 関連	除ハイテク 関連	自動車関連	全産業	製造業 (SIC)	
21/01	+1.1	(▲1.7)	+1.5	+2.9	▲2.6	+1.3	+1.4	+0.6	+75.0	+75.6	+0.0
21/02	▲3.0	(▲4.9)	▲3.7	▲8.9	+7.4	+1.0	▲3.7	▲10.7	+72.7	+72.8	+0.0
21/03	+2.9	(+1.8)	+3.4	+12.0	▲8.6	+1.5	+3.3	+4.0	+74.8	+75.3	+0.0
21/04	+0.1	(+17.9)	▲0.2	▲0.5	+2.7	+1.5	▲0.6	▲7.2	+74.8	+75.1	+0.0
21/05	+0.7	(+16.4)	+0.8	+1.7	▲1.4	+1.2	+0.8	+5.2	+75.3	+75.7	+0.0
21/06	+0.5	(+10.2)	▲0.3	+0.2	+6.1	▲0.5	▲0.3	▲5.0	+75.6	+75.5	+0.0
21/07	+0.8	(+6.7)	+1.5	+0.4	▲3.1	+0.2	+1.5	+8.5	+76.2	+76.6	+0.0
21/08	+0.0	(+5.6)	▲0.3	▲0.6	+2.9	+0.6	▲0.2	▲3.0	+76.2	+76.4	+0.1
21/09	▲1.3	(+4.6)	▲0.7	▲2.3	▲3.7	+0.9	▲0.7	▲7.1	+75.2	+75.8	+0.1
21/10	+1.6	(+5.1)	+1.2	+4.1	+1.2	+1.3	+1.0	+11.0	+76.4	+76.7	+0.1

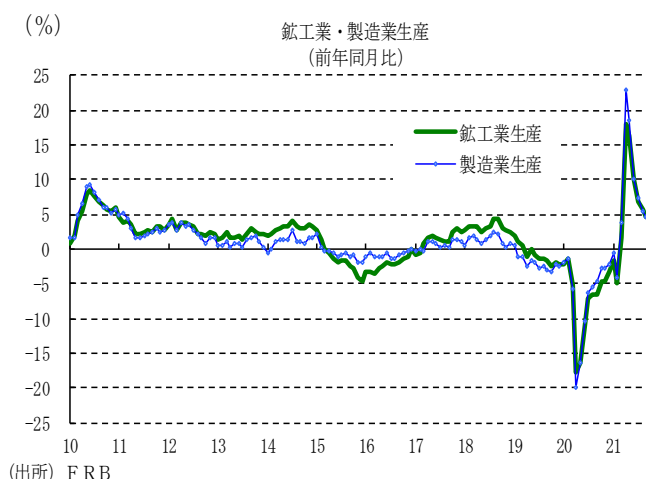
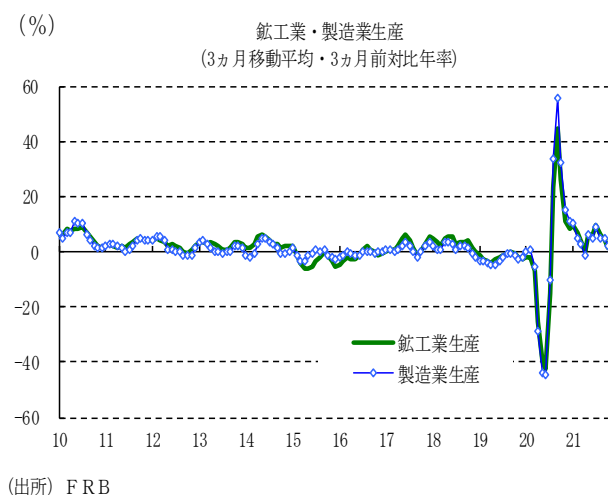
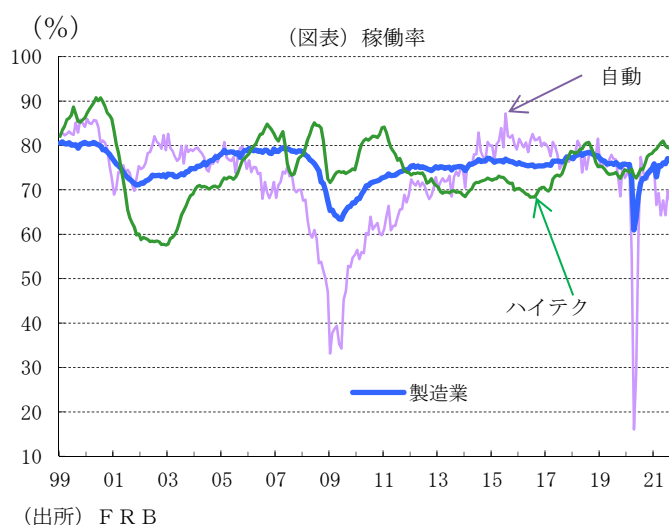
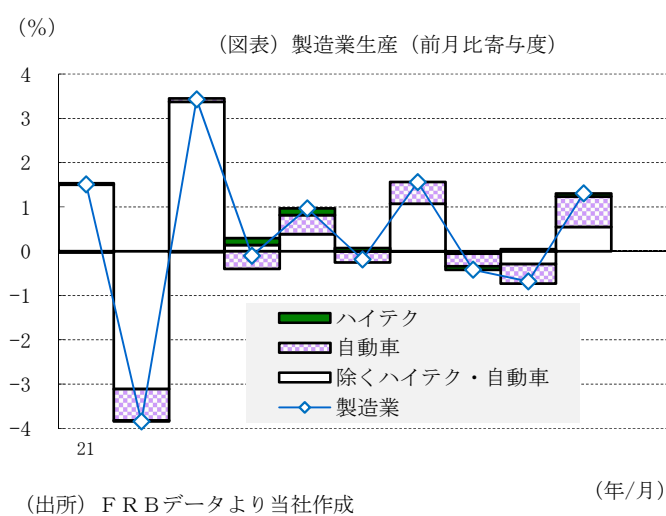
(注)カッコ内は前年比



製造業の業種別の動向をみると、前月比で増加した業種は、拡大幅の大きい順に、自動車・同部品（+11.0%）、石油・石炭製品（+5.0%）、化学（+1.9%）、航空宇宙・その他輸送機器幅（+1.4%）、印刷・同サポート（+1.4%）、一次金属（+0.7%）、木材製品（+0.6%）、食品・飲料・タバコ（+0.3%）、コンピューター・電子（+0.3%）、加工金属（+0.2%）、プラスチック・ゴム（+0.1%）、家具・関連製品（+0.1%）の12業種（9月10業種）と増加した。

一方、前月比で減少した業種は、繊維（▲1.5%）、電気設備・機器・同部品（▲1.5%）、一般機械（▲1.3%）、その他耐久財（▲0.9%）、非鉄（▲0.9%）、その他製造業（▲0.4%）、紙パ（▲0.2%）の7業種（9月7業種）と変わらず。アパレル・皮革（0.0%）は横ばいとなった。

前年比では、その他製造業、自動車・同部品、非鉄の3業種のみ下落した。



本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命保険ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。